True
Electric Kettle

デロンギ
トゥルー
電気ケトル

型式番号 家庭用 **JKP240J**

取扱説明書

この度は、デロンギ トゥルー 電気ケトル JKP240J をお求めいただきまして、誠にありがとうございました。製品を正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に、必ずこの取扱説明書を最後までお読みください。なお、お読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

保証書付

Made in China

特長

● **キッチンになじみやすいシンプルなデザイン**
白いボディにグレーのアクセントのきいた、どんなキッチンにもなじみやすいデザインです。プラスチック製なので、軽くて使い心地も抜群です。

● **必要なときに必要な分量だけを沸かす**
保温タイプの電気ポットとは違い、その都度、必要な分量だけを沸かすことができ、経済的です。

● **持ち運び自由、テーブルに直置きが可能**

● **自動電源 OFF 機能、空だき防止機能付き**
お湯が沸いたときや、ケトルを電源ベースから持ち上げたとき、自動的に電源が切れます。ケトル内が空または水が少ない状態になったときも、自動的に電源が切れます。

● **開け閉めが簡単なふた**
ふたは簡単に開け閉めができます。ふたは取りはずすタイプではないので注水時に置き場所に困りません。

● **左右 2 か所の水量計**
水量計が左右 2 か所にあるので、どちら側からでも水量が確認できます。

● **ケトル内部のお手入れが簡単**
「コンシールド・ソール構造」により、内部のお手入れがしやすく、清潔さを保てます。

目次

安全上のご注意　各注意事項を、必ずお守りください。

1. ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」を最後までお読みください。
2. ここに示した注意事項は、製品を正しく安全にお使いいただき、あなたや他の人々への損害を未然に防止するものです。
3. 注意事項は、誤った取り扱いで生じることが想定される内容を、その危害や損害および切迫の度合いにより、「警告」と「注意」の２つに分け、明示しています。

警告	注意
この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	**この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。**

4. 各注意事項には、「禁止」または「強制」を促す絵表示が付いています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。			この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。
：禁止	：接触禁止	：水ぬれ禁止	：指示を守る
：分解禁止	：ぬれ手禁止	：風呂・シャワー室での使用禁止	：電源プラグを抜く

警告

電源／コンセントについて

電源は交流100V（50/60Hz）で「15A125V」と記されている壁面のコンセントに直接差し込む

火災・感電の原因。

コンセントは本製品だけ（単独）で使用する

発火の原因。
他の器具と併用すると、分岐コンセント部が異常発熱します。

取り付けの悪いコンセントは絶対に使わない

火災・感電の原因。

延長コードやテーブルタップ、ソケットなどは絶対に使わない

発火の原因。
コンセントや電源プラグ／電源コードが異常発熱します。

警告

電源プラグ／電源コードについて

電源プラグは、根元までしっかりと差し込む
火災・感電の原因。

電源プラグやコンセントに付着しているホコリやゴミは、定期的に取り除く
火災の原因。

動作中に電源プラグを抜き差ししない
火災・感電の原因。

電源プラグ／電源コードを破損するようなことはしない（電源プラグ／電源コードは、大切に扱ってください。無理に曲げたり、物を載せたり、束ねたり、傷をつけないでください）
傷んだまま使用すると、感電やショートによる発火の原因。

変形・破損している電源プラグ／電源コードは絶対に使わない
火災・感電の原因。
電源コードが破損している場合は、お求めの販売店または当社サービスセンター（10 ページ参照）に相談する。

電源コードをコードホルダーに巻きつけたまま使用しない
発火の原因。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電・けがの原因。

電源プラグ／電源コードが異常発熱している場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く
ショートによる発火の原因。
使用中に、電源プラグ／電源コードが異常に熱くなる場合は、直ちに電源を切り、お求めの販売店または当社サービスセンター（10 ページ参照）に相談する。

使用中／使用後について

異常が生じた場合は、使用を中止する
けがや故障の原因。
万一、異常が生じた場合は、直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店または当社サービスセンター（10 ページ参照）まで連絡する。

自分で絶対に分解・修理・改造は行わない
故障や発火の原因。

注ぎ口をふきんなどでふさがない
お湯がふきこぼれ、やけどの原因。

子供だけで使わせたり、幼児の手が届くところで使用しない
感電・やけど・けがの原因。

ケトルを傾けたり、ゆすったり、お湯を入れたまま移動しない
お湯がこぼれ、やけどの原因。

注意

電源について

ブレーカーが落ちる場合には、電力会社に連絡する
使用中にブレーカー（分電盤内の回路遮断器）が落ちる場合には、電力会社に相談する。

電源プラグ／電源コードについて

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たず、必ず電源プラグを持って抜く
感電・ショートによる
発火の原因。

使用中は、電源コードを本体に触れさせない
感電・ショートの原因。
熱で電源コードが痛みます。

設置場所について

電源コードは、必ずコード留めにはめ込んで使用する
やけどの原因。
コード留めにしっかりはめ込まないと、電源ベースが不安定になり、ケトル本体が倒れたり、熱湯が吹きこぼれるおそれがあります。

本体は不安定なところ、熱に弱いテーブルや敷物などの上では使用しない
本体や置いた物の変形・変質や火災の原因。

水道や熱源の近く、屋外や湿気の多い場所（部屋）、特殊な環境（硫化ガスの発生する場所、塩害などのおそれがある場所）で使用しない
ショートや感電による発火の原因。

使用中／使用後について

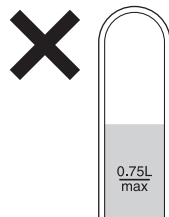
お湯を注ぐときは、ケトルを電源ベースから離す
やけど・けがの原因。

付属の電源ベースと共に使用する
火災・感電・故障の原因。
ケトル本体を、直火（ガス台など）や電気ヒーター、電磁調理プレートなどで使用すると、大変危険です。必ず付属の電源ベースで使用してください。

本体が転倒、落下したときには、使用せず、点検を依頼する
火災・感電の原因。

使用する際は、必ずふたを閉める
「自動電源 OFF 機能」がはたらかず、火災の原因になります。

使用後は、必ず電源プラグをコンセントから抜く
絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因。

「max」のライン（＝最大水量 0.75L）以上の水を入れない
沸騰したお湯が吹きこぼれ、やけどの原因。

ケトルに水以外のものを入れたり、他の用途で使用したりしない
やけどの原因。
内容物がふき出してくるおそれがあります。

使用中は、取っ手以外は触れない
やけど・けがの原因。
ケトルは、沸騰中および沸騰後もしばらく熱くなっています。

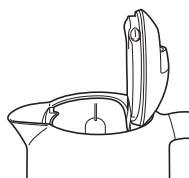
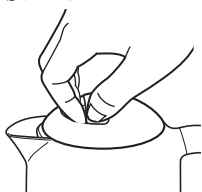
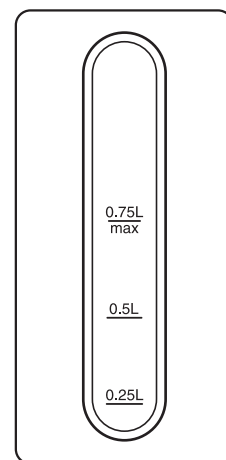
本体接続部や電源ベースに水（お湯）をこぼさない
ショート・感電の原因。
万一、こぼしてしまった場合は、直ちに電源を切り、使用を中止してください。その後、お求めの販売店または当社サービスセンター（10 ページ参照）にご相談ください。

お手入れについて

本体や電源プラグ／電源コードを水に浸したり、水洗いしない
故障や感電の原因。
ケトル底部や電源ベース、電源プラグ／電源コードは、水に浸したり、水洗いをしないでください。

本体のお手入れは電源プラグをコンセントから抜き、各部が冷えてから行う
やけど・感電・けがの原因。

各部の名称とはたらき

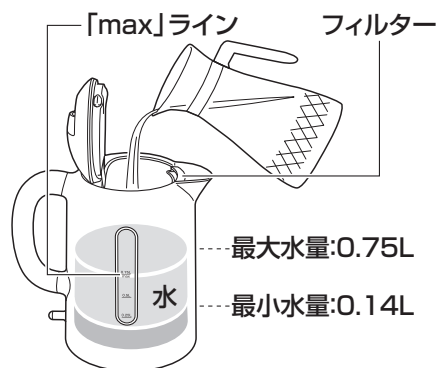
ふた
この部分に手をかけて開けます。
ふたが開いた状態
水量計
ケトルの左右両側についています。
※注水量を確認してご使用ください。
0.75L max
0.5L
0.25L
フィルター
取り外して、お手入れできます（取り付け済み）。
※フィルターの外しかた／取り付けかたについては 8 ページを参照してください。
注ぎ口
注水口
取っ手
電源スイッチ／ランプ
電源スイッチを下側に押し下げて電源を入れると、加熱が始まります。加熱中はランプが点灯します。お湯が沸くと自動的に電源が切れ、スイッチが元の位置（＝OFF 時）に戻り、ランプが消灯します。
OFF 時
ON 時
ケトル本体
※水以外は入れないでください
DēLonghi
接続部
ケトル底面（凹）
電源ベース（凸）
電源ベース
ケトルはどの方向からでもセットできます。底面にはコードホルダーがあります。
また、ケトルが空だき状態になると、自動的に電源が切れます（ランプが消灯します）。
電源プラグ
電源コード
電源ベース底面
コードホルダー
ケトルを使用しないとき、電源コードがじゃまにならないように、巻きつけておきます。
コード留め（1か所）
※電源コードはコード留めにはめ込んでご使用ください。
詳しくは3ページを参照してください。
電源コードをコードホルダーに巻きつけたまま使用しないでください。

使用手順

初めて使う際は、沸いたお湯からプラスチック樹脂の臭いがすることがあります。事前に「max」のラインまで水を入れて沸騰させてください。これを2～3回繰り返してからご使用ください。

ケトルに注水する

ケトルを電源ベースから外し、水を必要な量（0.14L～0.75L）だけ入れます。フィルターが装着されていることを確認後、**ふた**をしっかりと閉めてください。

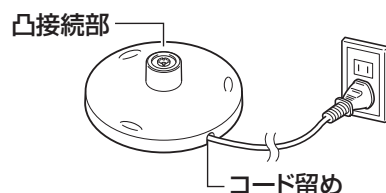
⚠ 注意

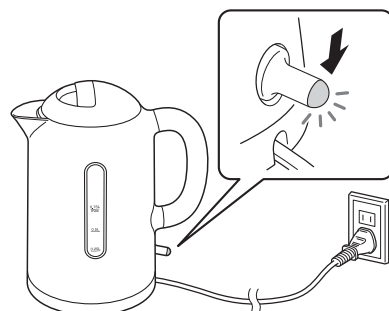
- 「max」のライン（＝最大水量0.75L）以上の水を入れないでください。お湯がふきこぼれ、危険です。
- 最小水量（＝0.14L）より少ない水量で使用しないでください。空だき防止機能がはたらき、電源が入りません。
- 本機は保温機能がありませんので、必要な量だけ沸かしてください。

電源を接続する

電源プラグを壁面のコンセントに直接差し込みます。根元までしっかりと入れてください。

⚠ 注意

使用中、電源コードは必ず、

- コードホルダーからすべて引き出して使用してください。
- コード留めにはめ込んで使用してください。

ケトルを電源ベースにのせ、電源を入れる

水を入れたケトルを、電源ベースの中央に正しく（＝ケトルの底面の凹接続部と電源ベースの凸接続部を合わせて）セットします。
ふたがしっかり閉まっていることを確認後、電源スイッチを下側に押し下げます。
電源が入ると、ランプが点灯します。

⚠ 注意

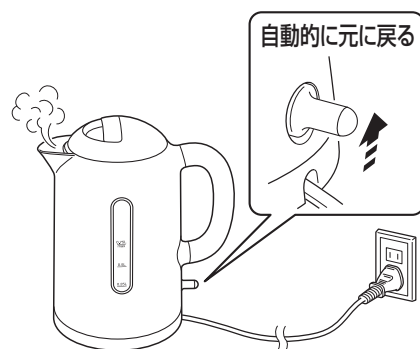
ご使用の際は、必ずフィルターを装着し、しっかりふたを閉めてください。

サーモスタットが温度を感知できないために「自動電源OFF機能」がはたらかず、沸いたままの状態が続き、危険です。

使用手順（つづき）

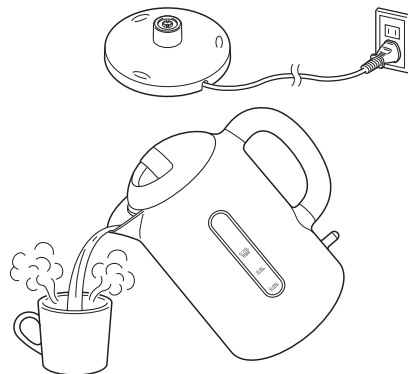
お湯が沸き、電源が切れる

お湯が沸くと「**自動電源OFF機能**」のはたらきで、自動的に電源が切れます(→電源スイッチが元に戻り、ランプが消灯します)。

【お湯が沸く前に、電源を切る場合】
電源スイッチを上側に押す

⚠ 注意

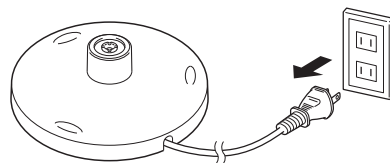
【連続して使用する場合】
約1 ～ 2分間の休み（＝電源OFF状態）をとってください。

お湯を注ぐ

ケトルを電源ベースから外し、ふたがしっかりと閉まっていることを確認後、お湯を注ぎます。
なお、ケトルの底面は熱くなりませんので、直にテーブルなどに置くことができます。

⚠ 注意

- 取っ手以外は触れないでください。ケトル表面が熱いので、やけどする危険があります。
- ぬれたテーブルの上に置かないでください。転倒するおそれがあります。

使用後は…

電源プラグをコンセントから抜き、電源コードをコードホルダーに巻きつけます。
お湯を残さず捨ててください。
※お手入れ（8ページ参照）は、各部が冷めてから行ってください。

自動電源OFF機能

お湯が沸くと、自動的に電源スイッチが元に戻り、電源が切れます。

空だき防止機能

電源が入っているときに、ケトル内が空もしくは水が少ない状態になった場合は、空だき防止機能がはたらいて、自動的に電源が切れます（ランプが消灯します）。
※この機能がはたらいた場合は、ケトルを電源ベースから外し、しばらく冷ましてください。

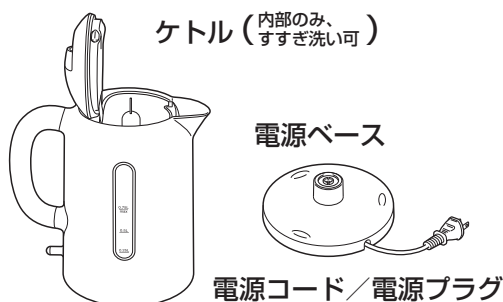
お手入れのしかた

汚れ具合や使用頻度によりますが、定期的に下記の要領でお手入れをしてください。

お手入れをするときの注意点

事前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

使用後すぐのお手入れはやめ、各部が冷えてから行ってください。

水洗いできません

・外側の汚れは、柔らかい布にお湯を含ませ、固く絞ってから拭き取ります。

・落ちにくい汚れは、お湯で薄めた台所食器用洗剤を柔らかい布に含ませ、固く絞ってから拭き取ります。その後、お湯を含ませ固く絞った布で、洗剤を残さず拭き取ってください。

・電源コード／電源プラグは、柔らかい布で空拭きだけしてください。

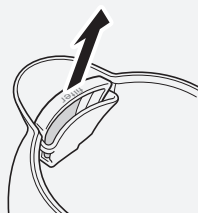
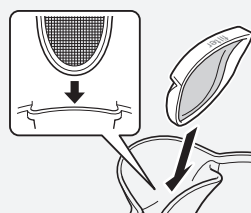
※ケトルの内部は、水洗いできます。

・外側や底部に水をこぼさないようにしてください。

・クレンザー（研磨剤）やベンジン、シンナー、金だわしなどは、使用しないでください。本体の表面が変質し、はがれ・変色・樹脂部品の割れの原因になります。

水洗いできます

フィルター

フィルターの外しかた／取り付けかた

【外す】フィルターを上方に持ち上げます。

【取り付ける】フィルターを注ぎ口の内側にある溝に合わせ、押し込みます。

柔らかいスポンジと台所食器用洗剤で、水洗いできます。ケトルには、乾いてから取り付けてください。

石灰分の除去

長く使っていると、ケトル内に石灰分が付着し、白い膜ができます。使用頻度や水質によりますが、付着が目立つ場合は、以下の要領で石灰分を除去してください。

①ケトルに0.7Lの水と**食酢もしくはクエン酸を大さじ2杯**入れ、ふたをします。

②ケトルを電源ベースにセットし、電源スイッチを下側に押し下げて電源を入れます。

③沸き上がったら（＝電源スイッチOFF）、そのまま1時間放置します。その後、お湯を排水し（**やけど注意**）、ケトルを空にします。

④ケトルを水だけで満水（＝0.75L）にして、お湯を沸かします。食酢を使用した場合は、酢の臭いが消えるまで繰り返してください。このとき1時間の放置は不要ですが、繰り返し行う際は間で必ず**1～2分程度の休み（電源OFF状態）をとってください。**

故障かな？

使用中に異常が生じたときは、修理を依頼される前に、下記をもう一度チェックしてみてください。それでも異常があるときには、修理をご依頼ください。

症状	原因	対処
温度が上がらない／沸騰しない	電源プラグがコンセントから抜けている。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
電源が入らない	電源プラグがコンセントから抜けている。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
	空だき防止機能がはたらいた。	ケトルを電源ベースから外し、しばらく冷ましてからご使用ください。
お湯が吹きこぼれる	「max」ライン（＝最大水量）以上の水が入っている。	「max」ラインを超えて注水しないでください。
本体が熱い	お湯が沸いたときのケトル表面は、大変熱くなります。	故障ではありません。

仕様

製品名称／型式番号		デロンギ トゥルー 電気ケトル／ JKP240J
定格	電圧／周波数	交流100V　50/60Hz
	消費電力	1150W
定格容量		0.75L
大きさ	本体のみ	幅135×奥行190×高さ200（mm）
	本体＋電源ベース	幅135×奥行190×高さ215（mm）
質量	本体のみ	0.6kg
	本体＋電源ベース	0.9kg

各部	材質
ケトル本体	ポリプロピレン
電源ベース	ポリプロピレン
水量計	ポリプロピレン

この製品は欧州RoHS指令に適合した製品です。

欧州RoHS指令とは、「電気・電子機器の特定有害物質の使用制限」を規定した欧州連合（EU）による指令です。
この製品は、鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、六価クロム化合物、カドミウム及びその化合物、ポリブロモビフェニル（PBB）、ポリブロモジフェニルエーテル（PBDE）の含有率が、いずれも含有率基準値以下であり、環境に配慮して製造されました。

アフターサービスについて

1)使用中に異常（★）が生じた場合は、ただちに電源を切り、プラグをコンセントから抜いてください。その後、9ページの「故障かな？」で調べても正常に機能しない場合は、お求めの販売店またはデロンギ・ジャパン サービスセンター（下記参照）にご相談ください。

〈★以下のような場合には、点検および修理が必要です〉

- 使用中、電源コードおよび電源プラグ、コンセントが異常に熱くなる
- 本体や電源ベースに水などの液体をこぼした
- 電源コード、電源プラグが変形／破損している
- 本体に強い衝撃（転倒・落下）を与えた
- 取扱説明書どおりに使用しているのに、正常に機能しない

2)万一、故障／損傷した場合は、保証書に記載されている販売店に**1.お求め時期　2.製品名称と型式番号　3.故障の状況**──を連絡のうえ、修理を依頼してください。なお、当社サービスセンターにご依頼される場合は、お電話または直接宅配便でお送りください。

※宅配便等を利用して当社サービスセンター（下記参照）に直送される場合は、必ず故障の状況を記したメモを商品パッケージ（梱包箱）に同封してください。

※送り先については、事前にお電話あるいはホームページ（http://support.delonghi.co.jp）にてご確認ください。

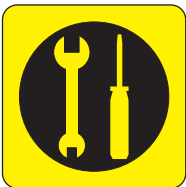
3)保証期間中（1年）は、保証書に記載されているものについては、無料で修理いたします。ただし、安全上および使用上の注意を無視しての故障、規格外に改造をしたものは、その限りではありません。また、保証期間が過ぎたものについては、有料で修理いたします。

4)補修用性能部品の保有期間について

当社では、この製品の補修用性能部品について、最終輸入日を起点に5年間保有しております。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

5)まごころ点検のおすすめ：長い期間ご使用いただくために、専門技術者による点検（お預かり）をおすすめします。点検の依頼および料金などにつきましては、当社サービスセンターまでお問い合わせください。

※下の枠内に、ご購入年月日を記入してください。点検の目安になります。

ご購入年月日:	年	月	日

6)デロンギ再資源化システムについて

ご不用になった製品は、下記の要領に従い、当社サービスセンターまでお送りください。素材ごとに分別し、再資源化いたします。

送料について：再資源化の費用は当社が負担いたしますが、送料はお客様のご負担（元払い）となります。予めご了承ください。

梱包について：製品の入っていた箱（元箱）に入れてお送りください。元箱がない場合は、段ボール箱に入れるか、エアーパッキン等にくるんでください。

※外箱または送り状に、必ず「再資源化」と明記してください。

※送り先については、事前にお電話あるいはホームページ（http://support.delonghi.co.jp）にてご確認ください。

以上、アフターサービスについてご不明の点がございましたら、お求めの販売店または当社サービスセンターまでお問い合わせください。

デロンギ・ジャパン サービスセンター ▶（受付時間　土、日、祝日を除く毎日 9:30 ～ 17:00）

コールセンター　Tel.0120-804-280 ／ Fax.045-450-3291

〒221-0022　神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-9　安田倉庫（株）内 4 号ビル

ホームページでのお問い合わせ（URL）　**http://support.delonghi.co.jp**